

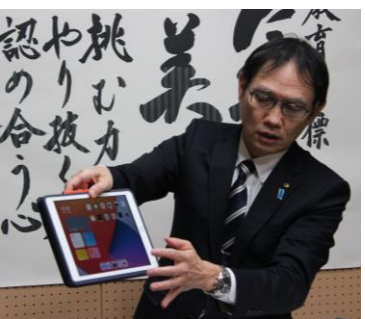
タブレット端末を学びの道具に

校長 吉田 隆

二〇二一年は、日本の教育の大変革の年として、歴史に刻まれることでしょう。

国際的にも、遅れを取っていた日本の教育現場のICT活用。タブレット端末を二〇二三年までに小一から中三まで段階的に配備する予定が、コロナ禍の影響もあり、二〇二一年三月までに進められることになりました。

新潟小学校には、十二月末に全児童と学級担任分、五百五十台ものタブレット端末が届きました。新潟市教育委員会から、一月末までに子どもたちの手に届くようにする旨の通知が出ています。急ピッチで準備作業を開始しました。



朝会后、子どもたちは、「いつから使えるの?」「こんな使い方してみたい。」などと心躍らせていました。

子どもたちの手元に渡せるようになるまでには、ソフト面とハード面の様々な準備が必要です。初めて使用する際の授業開きやオリエンテーションの準備、すべての端末への児童名のシール貼りや充電用アダプターの接続などもあります。

このような状況下で、GTO(新潟小学校サポーター)から有り難い連絡がありました。「今年は、コロナ禍で学校のお手伝いをする機会がなかったが、三月末までに何かお役に立てることはないだろうか。」という内容です。



まさに「千天の慈雨」。一月二十三日の土曜参観の午後、GTOの皆さんのお力を借りて、五百五十台すべてのハード面の作業を完了させることができました。

教育の大変革に向けての準備作業を、GTOの皆さんと共に行ってきたことに感謝を申し上げます。

一月末、全児童の手にタブレット端末が渡りました。早速、様々な機能を活用し始めています。子どもたち一人一人が、タブレット端末を文房具のようには使いこなし、学びを広げてくれることを期待しています。